

災害への備え

日本赤十字社千葉県支部 岩崎 博亮



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

1

+ 日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

メニュー

1. 日本赤十字社について
2. 災害への備え
3. 自分で行える応急処置
(赤十字救急法)

2

日本赤十字社の9つの事業

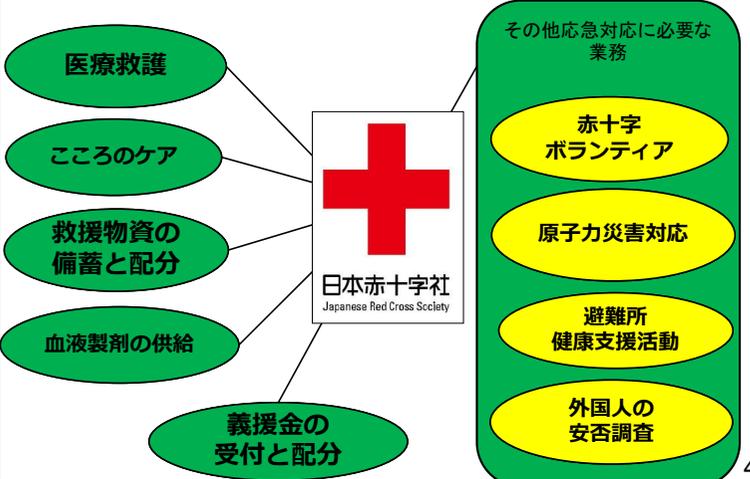


社会福祉 **国内災害救護** **国際活動** **赤十字病院**
青少年赤十字 **看護師養成**
ボランティア **救急法講習** **血液事業**

3

+ 日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

日本赤十字社の災害救護対応



医療救護
こころのケア
救援物資の備蓄と配分
血液製剤の供給
義援金の受付と配分

赤十字ボランティア
原子力災害対応
避難所健康支援活動
外国人の安否調査

その他応急対応に必要な業務

4

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

令和2年7月豪雨対応

5

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

1. 災害の概要

大雨特別警報の発令

令和2年7月4日(土)	熊本県、鹿児島県
令和2年7月6日(月)	福岡県、佐賀県、長崎県
令和2年7月8日(水)	岐阜県、長野県

※本災害により、以下8県に災害救助法が適用
長野県、岐阜県、島根県、福岡県、佐賀県、熊本県、大分県、鹿児島県

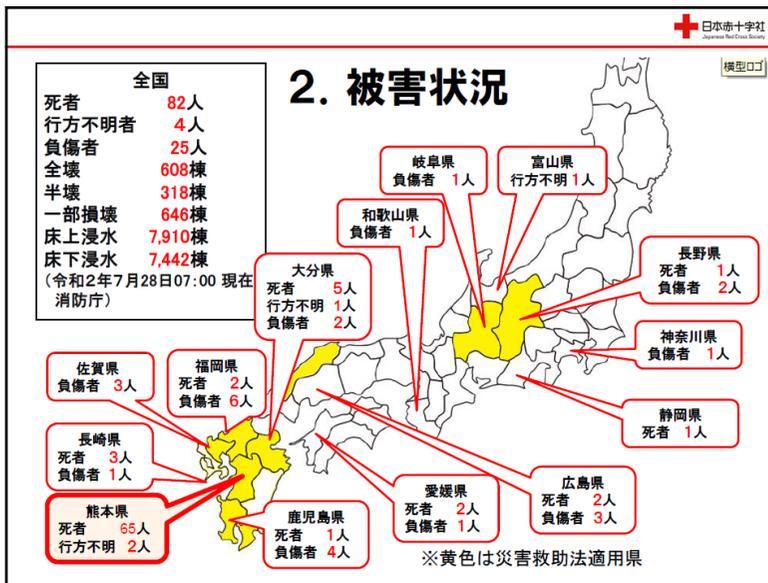


熊本県人吉市



熊本県球磨郡球磨村

6



7

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

3. 日本赤十字社の主な活動状況

職員の派遣	救援物資の配布
<p> 救護班 53班 を派遣 ※日本DMAT(21班)を含む</p>	<p> 毛布 2,128枚</p>
<p> 災害医療 コーディネーターチーム 26班 を派遣</p>	<p> 安眠セット 965セット</p>
<p> 支部支援要員 6名 を派遣 ※九州・沖縄地方の支部から熊本県支部へ派遣</p>	<p> 緊急セット 930セット</p>
<p>(令和2年7月27日 現在)</p>	<p> タオル類等 5,391枚</p> <p>(令和2年7月27日 現在)</p>

8

日本赤十字社は、
新型コロナウイルス感染症から
皆様の大切な命を守るために
全力を尽くして活動しています。

9

～必要とされる現場に救護班等を派遣しています～

■横浜クルーズ船下船者等の支援

- 医師・看護師・事務3名を滞在施設に派遣
(2月22日～2月24日)
診療下船者の経過観察・感染拡大防止の支援



■千葉県内の障害者施設の
集団感染(クラスター)への対応

- 感染症専門医・感染管理認定看護師を派遣
施設内の感染拡大防止策の指導



■軽症者受け入れ施設での医療活動

- 成田市内のホテルへの救護班の派遣
(4月20日～継続中)
新型コロナウイルス感染者(軽症)の医療対応

10

～命を守る最前線で安心・安全な医療を提供しています～

成田赤十字病院は、
全国に4カ所のための**特定感染症指定医療機関**として

万全の感染防止対策、
充実した医療体制の下で、
患者さんのため
日々懸命に治療にあっています。



11

11

～緊急事態宣言下における輸血用血液の安定供給～

外出自粛、緊急事態宣言の影響で
献血者が大幅に減少するなか、
千葉県赤十字血液センターでは、
「**献血の予約**」と
「**継続的な献血**」等により
献血への協力をお願いし、
血液の安定供給に努めました。



■地域奉仕団による献血協力の呼びかけ

東金市赤十字奉仕団の熱心な働きかけにより、
献血会場に多くの協力者が来場、
血液確保に大きく貢献いただきました。



12

12

～子どもたちのために手作りマスクを作製～

勝浦市赤十字奉仕団
君津市赤十字奉仕団

計2,200枚のマスクを市内の園児や小中学生全員に贈りました。

700枚を君津市に寄贈しました。教育委員会から学校を通じて、君津市内小学校の新1年生全員に配布されています。

13

+ 日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

メニュー

1. 日本赤十字社について
2. 災害への備え
3. 自分で行える応急処置
(赤十字救急法)

14

+ 日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

災害に備えるために

「自助」

「共助」

- 災害発生時に「いのちを守る」
- 災害発生後の「暮らしをつなぐ」

15

+ 日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

いのちを脅かす様々な事象(災害)

地震、津波、大雨、洪水、がけ崩れ、竜巻、豪雪、噴火、大規模な火事 等

16

過去の事例を超える事態への対応

● 今後発生が予測される大規模地震(例)

	30年以内の発生確率	死者	避難者数
南海トラフ地震	70~80%程度	約23万1千人	約500万人
首都直下地震	70%程度	約2万3千人	約720万人

● 気候の変化による大雨・土砂災害の増加

局地的大雨の頻発

猛烈な台風の発生

私たち自身が考え、行動することが重要

17

17

住んでいる地域を知る

● ハザードマップ(防災マップ)で確認する

- 被災想定区域
- 避難場所
- 防災関連施設



● まち歩きをする

- 身近にある安全な場所



18

18

大雨・土砂災害からいのちを守る

19

大雨による被害



出典: 常総市災害記録誌「忘れない9.10」(http://www.city.joso.lg.jp/soshiki/shicho_koshitu/hisho/kik09/gyomu/hp/1465878318454.html) 20

20

+ 日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

大雨による土砂災害(土石流)



出典: 広島県砂防課 ~土砂災害 啓発・伝承支援制度~ 土砂災害啓発パネル(大人用)
(<http://www.sabo.pref.hiroshima.lg.jp/densyou/index.html>)

21

21

+ 日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

大雨・土砂災害からいのちを守るために

早めに安全な場所に避難する

- 1 住んでいる地域を知る
- 2 情報を理解し、活用する
(気象情報、避難情報)
- 3 隣近所の日頃からのお付き合い
(声を掛け合って避難)



22

22

+ 日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

地震からいのちを守る

23

23

+ 日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

地震による倒壊・火災




広域で同時に多発し
消火が追いつかない

出典: 消防庁「チャレンジ! 防災48」

24

24

+ 日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

地震による土砂災害

- 山間地の斜面崩壊
- 丘陵地・台地の造成盛土宅地の斜面崩壊

弱い地盤が地震の振動を受けて滑ることにより発生



平成30年北海道胆振東部地震の土砂災害の様子
出典: 総務省消防庁ホームページ

25

25

+ 日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

地震による死亡の原因

阪神・淡路大震災(平成7年)

- 1 窒息・圧死
- 2 火災による焼死・熱傷
- 3 けが・外傷

原因	割合
窒息・圧死	77%
焼死・熱傷	9%
その他	14%

いのちを守るために何が出来ますか？

出典: 国土交通省近畿地方整備局ホームページ「阪神・淡路大震災に学ぶ」

26

26

+ 日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

被害を抑える・減らす

- 建物の耐震化や家具・家電の転倒防止
- ガラス飛散防止フィルムを貼る
- 高い所に重い荷物を置かない 等



家の中が安全であれば、すばやく逃げられる
(二次災害を防ぐ)

27

27

+ 日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

火の始末

火を消すのは揺れが収まった後

- 1 身を守る 
- 2 火の始末をする 
- 3 (万が一出火したら) 初期消火 
- 4 避難する際は、電気とガスを止める

28

28

気を付けたい火災の原因

- 落ちてきたものや倒れかかったものに暖房器具が接触して出火
- 電気復旧時に出火(通電火災)



通電火災の危険性

地震による停電から復旧した際、通電状態となった暖房器具や傷んだ配線などからの出火により発生する火災のことを通電火災といいます。阪神・淡路大震災（1995年）では、出火の原因が特定できた建物火災のうち、約6割がこの通電火災が原因といわれています。

地域のでいのちを救う



提供：阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター
出典：消防庁「チャレンジ！防災48」

津波からいのちを守る



東日本大震災(宮城県南三陸町)①



提供：南三陸町
出典：消防庁「チャレンジ！防災48」

東日本大震災(宮城県南三陸町)②



出典:消防庁「チャレンジ!防災48」 33

33

このような場合はとにかく避難

- 海の近くで揺れを感じた時
- 弱くても長い揺れを感じた時
- 津波に関する注意報・警報が発表された時



34

34

津波からいのちを守るために

- 1 直ちに高い場所に避難する
絶対に戻らない
- 2 声をかけながら率先して避難する
- 3 津波に関する情報を知っておく

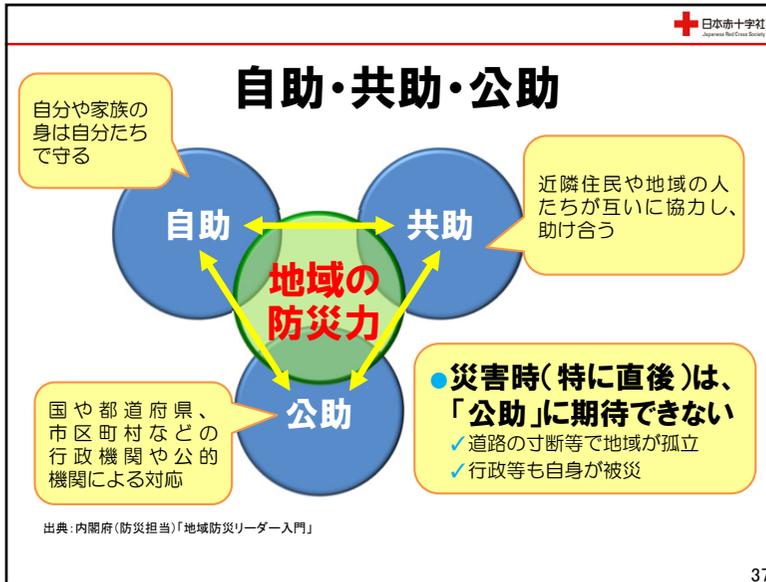


35

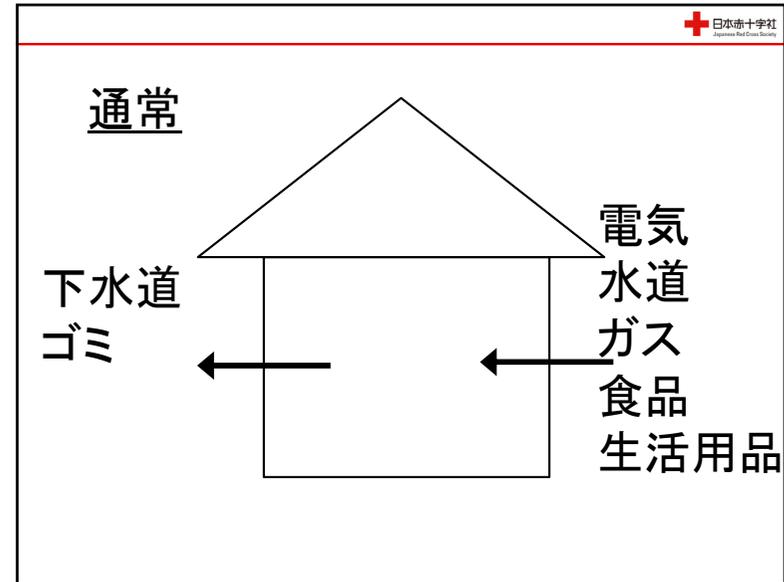
35

暮らしをつなぐ

36



37



38

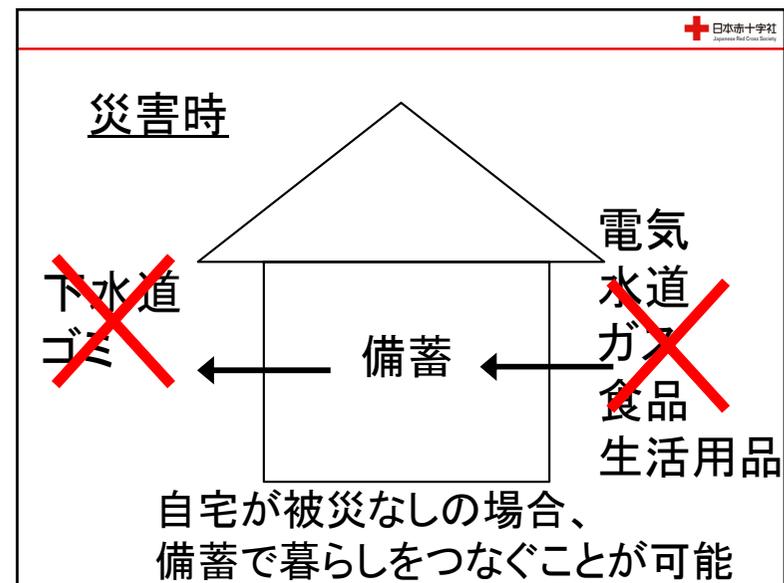
+ 日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

東日本大震災の時間経過の一例

発災直後	小売店長蛇の列、品薄 現金払いのみok
3日目	電気復旧 物流ストップ小売店閉店
2週間経過	小売店再開
1カ月経過	上下水道復旧 鉄道一部再開

39

39



40

+ 日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

日常備蓄

ローリングストック法

食品を定期的に食べて、
食べた分を買い足し備蓄して
いく方法

ローリング
ストック法

日常で使う

消費

準備する

準備する

買った分だけ
買い足す

買い足す

数日分生活するために必要な備蓄品を準備しておきましょう

41

41

+ 日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

あなたが必要なものは

貴重品

※現物を持ち出せなかった場合に備えて、
必要に応じてコピーを入れておく

- 身分証明書
- 健康保険証
- マイナンバーカード
- 母子健康手帳
- 印章
- 現金
- お薬手帳
- 銀行の口座番号・
生命保険契約番号など

情報収集用品

- 携帯ラジオ
- 予備の電池
- 家族の写真
(はぐれた時の
確認用)
- 小銭(公衆電話用に
10円玉・100円玉)
- 携帯電話
- 予備の電池
- 家族との災害時
の取り決めメモ
- 非常用携帯
電話充電器
- 筆記用具

便利品など

- 箱やブザー
(音を出して居場所
を知らせるもの)
- 懐中電灯
- 防災ずきん
またはヘルメット
- 予備の電池
- マスク
- 万能ナイフ
- HOT
ホックアイロ
- 手袋
- ビニール袋
- アルミ製保護シート
- 毛布
- 雨具
- レインコート
- マッチか
ライター
- スリッパ
- 靴水袋

食料など

- 非常食
- 飲料水

清潔・健康のためのもの

- 救急セット
- 常備薬
- タオル
- 歯ブラシ
- ティッシュペーパー
- トイレットペーパー
- 下着

個々の実情に応じて必要となるもの

- 紙おむつ
(幼児用・
高齢者用
など)
- 生理用品
- 予備の眼鏡、
杖など自分の
生活に欠かせ
ないもの

42

42

+ 日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

特有の必要なもの 例

子育て、介護、服薬中、ペット、
アレルギー、etc

<p><女性></p> <ul style="list-style-type: none"> 生理用品 スキンケア 携帯用ビデ 等 	<p><子育て世帯></p> <ul style="list-style-type: none"> オムツ ミルク おしりふき 保湿クリーム おもちゃ 等
--	--

43

43

+ 日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

これまでの日常とは全く異なる生活

- 住家・家財に大きな被害
- 水道・電気・ガス(ライフライン)が停止
- 不自由な避難生活

皆で協力し、助け合うことが大切

44

44

暮らしをつなぐために

- 1 自分にしかできないことは自分で備える
 - ・ 無ければ生活に支障がでるものを準備
- 2 自分だけでは成り立たない暮らしを皆で助け合う
 - ・ 隣近所の人たちとの関係
 - ・ リーダーの役割



災害時におけるリーダーの必要性

災害時は

- ・ 発生直後から状況が様々に変化する
- ・ 状況の変化に応じてニーズが変わる
- ・ 時間の経過と共に、公的機関・市民団体等の支援活動が始まり、様々な調整が必要になる

**リーダーに協力する、
あるいはリーダーになる**



災害時の犯罪 例

空き巣、**性犯罪**、放火、詐欺

暴力、強姦など

<対策>

- ・ 夜は外にでない
- ・ 一人で行動しない等

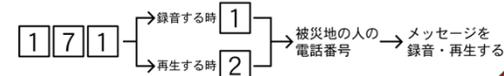
家族や知人の安否確認

電話は、発信や接続が制限される場合があります。
家族や知人等との連絡方法を予め決めておきましょう。



災害用ダイヤル「171」の使い方

「171」に電話をかけ、ガイダンスにしたがって必要事項を入力します。
(携帯電話などからも利用できます。)



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

別添1

感染症から身を守る

49

49

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

感染症とは

病原体が体に侵入して、症状が出る病気のこと。

【感染経路】
大きく分類すると
接触感染、飛沫感染、空気感染、媒介物感染の4つ

接触感染



食品、物体、汚物、手指など

飛沫感染



咳やくしゃみ

空気感染



空気中に浮遊している

媒介物感染



食品、昆虫などを介する

出典：国立国際医療研究センター病院 AMR臨床リファレンスセンターのHPを参考に作成
<http://amr.ncgm.go.jp/general/1-1-1.html>

50

50

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

過去に流行した・流行中の主な感染症 (コロナウイルス)

感染症名	発生時期	症状	流行地域
SARS (重症急性呼吸器症候群)	2002年	38℃以上の発熱、悪寒、乾燥咳、頭痛など。 下痢などの消化器症状を伴う場合もある。	中国など
MERS (中東呼吸器症候群)	2012年	急性の重篤な呼吸器症状で、発熱、せき、息切れや呼吸困難を伴い、ほとんどの割合で肺炎を起こす。	中東諸国など
新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)	2019年	発熱や呼吸器症状が1週間前後つづくことが多く、強いだるさ(倦怠感)がある。	世界各国

出典：感染症情報センターHP、厚生労働省関西空港検疫所HP、厚生労働省HPを参考に作成

51

51

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

新型コロナウイルス感染症

【特徴】

- 発熱や呼吸器症状が1週間前後持続することが多く、強いだるさ(倦怠感)や強い味覚・嗅覚障害がある。
- 罹患しても約8割は軽症で経過するため、感染に気付かない場合がある。
- 若年層では重症化割合が低く、65歳以上の高齢者や慢性呼吸器疾患、糖尿病、肥満などを有する者で重症化のリスクが高くなる。

【感染経路】

接触感染



食品、物体、汚物、手指など

飛沫感染



咳やくしゃみ

出典：新型コロナウイルス感染症対策本部「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」

52

52

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

感染症流行時における避難先について

- ・ 少人数・個別空間を確保できる避難先を選ぶ
※災害発生後に、水害による浸水や地震による津波、家屋倒壊の危険性がない場合
- ・ 「分散避難」を心掛ける

53

53

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

避難所に持っていくもの

- ・ マスク
- ・ アルコール消毒液
- ・ 体温計
- ・ スリッパ

非常持ち出し袋に入れておく

54

54

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

避難所での生活で気をつけること

- 1 「3密」を避ける
 - ・ 換気の悪い密閉空間 (Poorly ventilated sealed space)
 - ・ 手の届く距離に多くの人がいる密集場所 (Dense places where many people are within reach)
 - ・ お互いの距離は2m以上あける (Keep a distance of 2m or more from each other)
 - ・ 近距離での会話や発声をする密接場面 (Close contact situations where conversation or shouting occurs at close range)
- 2 手洗いアルコール消毒の徹底
 - 手洗いの基本 (Basic handwashing)
 - ①流水と石鹸で手洗い (Wash with running water and soap)
 - ②乾燥 (Dry)
 - ③アルコール消毒 (Disinfect with alcohol)
- 3 無意識に目・鼻・口を触らない
 - ①目 (Eye)
 - ②鼻 (Nose)
 - ③口 (Mouth)

【1～3】
出典：新型コロナウイルス 避難生活お役立ちサポートブック
(認定 NPO 法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD)避難生活改善に関する専門委員会)

55

55

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

避難所での生活で気をつけること

- 4 マスクを着用し、咳エチケットを守る
 - ※マスクがない場合
- 5 食器やタオル等を他人と共用しない
- 6 床付近での感染リスクも認識する

【4・5】
出典：新型コロナウイルス 避難生活お役立ちサポートブック
(認定 NPO 法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD)避難生活改善に関する専門委員会)

56

56

+ 日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

避難所での生活で意識すること

- 他の避難者への配慮
- 避難所運営者に協力する

避難所運営者も被災者である



57

57

+ 日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

感染症対策としての生活ルール

- マスク着用、手指消毒の徹底
- 毎日の体温・体調確認
- ふたのあるトイレでは、ふたを閉めて流す
- ゴミは各家庭で密閉して廃棄
- 靴はビニール袋に入れて各自で保管
- 洗濯は各家庭ごとで徹底




フタを閉めてから流してください

58

58

+ 日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

感染症対策としての生活ルール

皆様へのお願い ～感染症予防のために～

トイレについて

- ◇ トイレはきれいに使いましょう。
- ◇ トイレを汚した場合には職員にお知らせください。
- ◇ 使用前には便座を拭きましょう。

手洗いについて

- ◇ トイレのあとや食事の前には手を洗いましょう。
- ◇ 水が出ない場合には、
 - ・ アルコール消毒剤を多めに手に取り、手拭き用の紙で拭き取りましょう。

食べ物について

- ◇ 袋入りの食べ物は、手でちぎって食べたりせず、直接食べましょう。
- ◇ おにぎりを握る時は、使い捨て手袋の使用やラップに包んで作りましょう。

お願い 嘔吐・下痢・発熱などの症状のある方は
すぐに職員又は管理者等にお知らせください。

出典：厚生労働省ホームページ（
https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_00346.h）

59

59

+ 日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

【参考】 避難所で想定される感染症対策（例）

- 収容人数を制限することから、最寄りの避難所以外の場所に誘導される場合がある。
- 世帯間の距離を確保するため、パーティションなどによって、仕切られる場合がある。
- 健康状態に応じて避難スペースが分かれる場合がある。

60

60



61



62

+ 日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

過去の災害における事例

- ・東日本大震災
 - ⇒岩手県内の避難所で
数十人規模のインフルエンザ患者
- ・平成28年熊本地震
 - ⇒南阿蘇村の避難所を中心に
ノロウイルスやインフルエンザ患者

出典：NHK特設サイト「新型コロナウイルス」(
<https://www3.nhk.or.jp/news/special/coronavirus/disa83>)

63

63

+ 日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

感染症から身を守るために

- 1 避難するときには、分散避難を心がける
- 2 感染防止のために必要なモノを準備する
- 3 感染リスクを認識し、感染防止のための生活ルールを徹底する

64

64

メニュー

1. 日本赤十字社について
2. 災害への備え
3. 自分で行える応急処置
(赤十字救急法)

65

1. 出血によるケガ
 - ①救助者の手を洗って清潔にする
 - ②ビニール手袋で感染対策
(きずに直接触れない)
 - ③傷口を清潔な布で強く圧迫する
(直接圧迫止血)
 - ④適度な強さで包帯する

66

2. 搬送
傷病者を危険な場所から搬送する
(傷病者に危険がなければ、原則
動かさず、その場で手当して救護
を待つ)
 - ① 毛布を使った応用担架
動画参照
⇒ WEBCROSS

67